

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470103807		
法人名	医療法人 博光会		
事業所名	グループホームつかがわ		
所在地	大分市東春日町5番25号		
自己評価作成日	令和6年10月10日	評価結果市町村受理日	令和6年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府 壱番館 1F		
訪問調査日	令和6年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームであり、また看護師を常勤配置しているため、24時間365日病院と連携しながら安心して生活することができます。開所から20年目を迎え、入居者様の高齢化や重度化が進む中、一人ひとりと寄り添いながら生活を共にしています。人生の終末期が近づいてきた時にはご家族様と何度も話し合った上で、その方にとってどのような最期を望まれるか真剣に考えながら看取りケアを積極的に行ってきた実績があります。

開所当時から理念である「私たちはいつもやさしい『目』で見て『耳』で聴いて『手』をさしのべて『利用者様への心の通った『ぬくもり』ある介護を目指します」を大切にして、質の高い介護、優しい介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であり看護師も常勤しています。24時間365日すぐに病院と連携が取れ安心した生活が送れています。入所して20年目の方もおられ、段々と高齢化されていますが、多数の利用者・家族の方から終末期までここで過ごさせて頂きたいとの希望があります。今日まで積極的に多くの看取り介護を受入れてきた経験と質の高い知識があり安心してお任せ出来る信頼関係が構築されています。利用者の生活歴・家族の声を聴きながら寄り添い、利用者中心のケアに取り組み、理念を、職員が受け止め実践しています。職員の教育プログラムの構築や利用者に対しての尊厳「長い人生を生きておられる方」に対して「本物」を提供する事に、職員全員で取り組まれている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用の際、つかがわ介護部の理念とホームの役割りについて説明し、理解し納得した上で入職し業務に当たっている。また、理念は事務所に掲示し、日々のケアを確認するようにしている	理念はリビングや玄関に掲示し、パンフレットにも掲載されています。理念は法人が一番大切にしていることで、会議や研修・新人採用時に説明し、理解を得るとともに共有と実践に繋げているか振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、ご利用者の地域活動の機会は少なくなっているが、ホームが神社夏季大祭の立ち寄り所で神輿を見学したり、目の前の公園で行われた地域夏祭りに参加したりと活動は増えてきている	コロナが5類に移行した後は、少しずつ地域交流を開始しています。隣接する公園で催される地域夏祭りに参加し、盆踊りを楽しむ利用者や日々の散歩で近隣の方と会話する等交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	パンフレット、広報誌、ホームページ、インスタグラムを通じて事業所の特色や活動内容など発信している。広報誌は地域の回覧板に挟んで回してもらっている。小学校に出向き、認知症の話をする機会もあった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は昨年末に100回を迎え、運営状況、利用者様の生活状況など詳しく報告している。いつも活発な意見を頂きサービス向上に活かすことができていた。地域からの依頼にも出来る限り応えるよう努力している	2ヶ月毎に対面での運営推進会議を開催し、校区自治会委員が会議進行を努めています。活動報告・ヒヤリハット報告と対策・意見交換や参加者から情報提供もあり、事業所運営に活かされており、自治会や老人会との関係構築が出来ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員が参加された時にはアドバイスを頂いたり、法改正等で不明な点があればその都度電話で確認している。市役所に出向いて状況報告するなど顔の見える関係性が築けている	運営推進会議には、市の担当者か地域包括支援センター職員が参加され、情報交換や相談・アドバイスを頂いています。市の窓口に出掛けた際に話すこともあり、連携や協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアが身体拘束に当たっていないかを会議の場で確認したり、マニュアルを活用し新人職員研修を行っている。身体拘束に関する外部研修にも参加し、その報告書は職員間で回覧して知識の共有に努めた	職員は身体拘束及び虐待の内容とその弊害を認識し、研修や勉強会等で正しい対応について確認し、支援に繋がっています。年2回外部講習でメンタルヘルス研修・スピーチロックについての勉強会を受講し報告書を職員で回覧し共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は権利擁護研修に参加し、その内容は報告書や会議にて職員に伝えている。最新の情報を伝え、高い意識で虐待や不適切なケアが起きないように注意を払っている。マニュアルについても見直しを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護について研修を通じ学ぶ機会を設け、一般職員には制度の概要について大まかに説明している。成年後見制度を活用されたご家族がいて、手続き上のサポートを行った実績もある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項説明書の改定などは管理者が行い、ご家族に十分な説明を行い、理解された上でサインして頂いている。生活上の不安についても話を傾聴し、不安が解消できるよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響にて家族会が数年開催できていないが、面会や受診付き添い時など来所された際にご家族よりご意見を伺うようにしている。また、ご家族アンケートにて意見を言いやすい機会を作り運営に活かしている	利用者とは、日々の関わりの中で思いを聞き、家族とは面会や電話等で意見を把握し運営に反映させています。年1回の家族アンケートを取っており、その結果対策を集計し家族にフィードバックしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課制度における自己評価表で運営に関する意見が記述でき、部長・事務長・理事長に直接伝えることが出来る。年2回の個人面談では全職員から個人的な意見を聞いたり、会議でも意見・提案ができる	事業所は、毎日の申し送り・ユニット会議・法人内各種委員会・随時の管理者との個別面談等で意見を聞く機会を設け、提案・アイデア等に対する支援体制を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課後の個人面談では、半期の振り返りをしてもらい、次の半期の目標設定を行っている。その際には、労働環境について意見を聞き、改善可能なことは、即座に対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や希望に応じた研修参加や資格取得には積極的に促している。能力・経験を加味し段階的に各種委員会の役をつき経験を積めるような流れが出来ている。チューター制度があり、人材教育に力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響にて他法人との交流会は現在行われていない。オンラインではない研修が増えてきており、研修会で他事業所とグループワーク等で積極的に交流するよう努めている。自法人の他部署職員とは勉強会、会議で交流が図れている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者より提供された情報を理解し、ご本人の話を伺いながら、慌てず丁寧に関係性を築くように心掛けている。入居当初は集中的に情報を集め、生活リズムの把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談にて、これまでの生活状況を伺い、不安なことや要望、ご家族の想いを汲み取れるように努めている。現在の生活や介護の様子の情報収集も行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時には、入居以外のサービスについても情報提供している。現在どのような生活場面でご家族に大きな負担が掛かっているか伺い、最善の方法を一緒に考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事、出来ない事を見極め、これまでの生活の中での家事や趣味活動を知り暮らしの中に取り入れるようにしている。そのことが自償の回復や生活のハリに繋がっている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	プラン作成時には、ご家族にも意見を伺い出来る限り反映するように心掛けている。面会時に普段の様子を報告したり、遠方で面会が難しい方には手紙や電話、SNSを活用して今の状況が分かるように工夫している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や面会等にて交流の機会を作り、馴染みの方との関係性が継続できるように支援している。コロナ禍で制限はあるが、状況を見ながら交流の機会を増やしていきたい	長引くコロナ禍の影響で、友人・親類の面会が減少する中、手紙・電話等で馴染みの関係継続を支援しています。「つかがわ便り」に日頃の活動・写真に担当者のコメントを付け送付しており、家族の協力で外出も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方で席を隣同士にしたり、過ごしやすい環境を考え支援している。ご利用者同士で直接会話が難しい場合は職員が間に入り橋渡しをしたり、気持ちを代弁するようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などでサービスが終了した後でもご相談を受け、アドバイスをすることもあった。また、地域の行事で終結した方のご家族と会うこともある。思い出話や現在の状況を伺うなどして関係性が継続している方もいる		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の伝達が困難な方が増えているが、日常の様子を観察し、小さな変化にも気付けるよう心掛けている。スタッフ間で情報を共有しながら利用者本位でケアできるよう取り組んでいる	利用者とゆっくり話す中で、思いを汲み取り、担当者会議やモニタリング・ケアプラン資料に反映する等思いの共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族や以前利用していた事業所から得た情報をまとめ支援に活かしている。ご家族面会時に昔の生活状況を聞き、情報を付け加え、今の生活に取り入れることが出来ないか検討している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりに合った生活リズムを考え、家事に参加したり、適度な運動や休憩を挟むなどして体調維持に努めている。その方らしい生活となるよう職員間で話し合っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりから情報を集め、本人、家族の思い、専門職の意見を統合し計画を作成している。プラン開始後はPDCAサイクルで実践している	利用者・家族の思い、関係職種の意見を反映した原案をケアカンファレンスで検討し、本案としています。計画担当者が3ヶ月毎にモニタリングを集約し、計画を見直しています。毎月、プラン実施表にて評価を記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人のケース記録に記載している。また、特変事項や受診情報、ケアの変更内容等は伝達ノートを活用して即座に最新情報が伝わるよう工夫している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人のグループホームであるため、法人内には専門職が数多くいる。いつでも相談し、協力してもらえる体制があり、多職種協働が常に行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前が公園であり、日々の散歩で地域の方との交流が図れたり、地域行事に参加しやすい環境にある。地域住民との関係性は良好である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方は当法人の医師が主治医であり、情報共有が図りやすい。夜間対応も行え、24時間安心して医療を受けられる環境である	利用者の殆どの方が入所前から当院を主治医としています。他の病院を受診の際には、家族と共に職員が同行され、情報は主治医・看護師・職員に報告されています。24時間何時でも対応できる体制が整っており、適切な医療がスムーズに受けられる支援となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには常勤の看護師は配置されている。同一建物には他の介護サービスがあり看護師が配置されているため、緊急時など協力が得られ適切な医療が受けられるようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には介護サマリーにて情報提供し、退院時には看護サマリーや退院カンファにて情報提供を受けている。入院中も院内の会議に介護部長が参加し、早期退院に向けて情報共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りケアの体制が整っていることを説明する。高齢化・重度化により終末期が近づいた際に看取りケアについて詳細に伝え、ご家族間での話し合いをして頂く。看取りの状態となった際には改めて意向を伺い同意を得たのち、職員間で情報共有し、看取りケアが開始される	看取りケアについては、豊富な知識と経験を持っています。利用者や家族がここで最期を迎えたいと希望しています。看取りの段階に応じて、その都度詳細を詳しく伝え、家族からの相談で葬儀に向けてのお話に耳を傾けながら、思いを大切にされています。職員は看取りから学んだ事を「振り返りシート」を使用し今後に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回は赤十字救急法(心肺蘇生法、AED訓練)を消防署より講師を招き実施している。また、介護部ナース主催で、感染症対策、救命救急処置の勉強会を介護部全体会議で定期的開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎の通報訓練、年1回の登院訓練、消火器訓練、避難誘導訓練など計画的に実施し、災害時に動ける体制作りに取り組んでいる。地域との合同防災訓練も実施した	通報訓練・登院訓練(施設から連絡が入ったらすぐに施設まで来る)消火器訓練・避難誘導訓練等を行いながら、全職員が災害についての知識を身につけて、利用者が安全に避難できる体制を整えています。近隣住民と合同で防災訓練を行っています。災害時には、何時でも協力し合える体制が構築されています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	つかがわ理念として、接遇は何よりも大切にしている部分である。特に認知症高齢者のケアを行う仕事なので、その方の自尊心を傷つけないよう言葉遣い、態度には十分注意し、不適切な言葉、態度が見られた際には、その都度指導している	事業所全体で理念を念頭に置き、高齢者介護にとって一番大切な「自尊心を傷つけない」「言葉遣い」「態度」であることを職員が学び実行されています。「接遇研修」で、厳しく・所作・笑顔・声のトーン等についての指導があり、「利用者が快」と思って頂ける対応に職員一丸となり取り組まれています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方が多いが、その方の想いに近づけるよう普段からコミュニケーションを図ったり、ご家族様にご意見を伺うなどしている。また、選択しやすいよう工夫することも多い			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の体調を考えながら、生活習慣に応じて臨機応変に生活支援している。その方がしたい事にはタイミングを逃すことなく行い、したくない事には無理強いすることなく時間や関わり方を変えるなど配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、その方が好きな手作りのカーデガン、ストールなど、一人ひとりに合った物を来て頂くようにしている。また出来る限り、ご本人に聞きながら洋服を選ぶようにしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リラックスできる音楽を掛けたり、食事内容を伝え、会話しながら食事が楽しい時間となるよう心掛けている。食事準備を手伝って頂くことは難しくなっているが、片付けで出来る部分は快く手伝って頂いている	「快食」を大切に食事は、事業所内で作られています。朝食のお味噌汁は各ユニットごとに職員が手作りをしています。高齢になり食事形態や食事摂取量、食事にかかる時間も個々で異なっています。多職種で連携を取りながら、少量しか食べる事が出来なかった方も食事形態や食事ペースに合わせた食事介助を行う事で、徐々に食事量が増えて来ています。利用者の誕生日の日には、職員がケーキを手作りし心を込めたお祝いをされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態や量を管理栄養士に相談しながら提供できている。食事や水分が摂りにくい方には、補助食を提供したり、果物やゼリー等その方が摂りやすい物、好きな物を準備するなど工夫している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、それぞれに合う口腔ケア用品を使用して口腔内の清潔保持に努めている。異常がある際には、法人内の歯科衛生士に相談し指導を受けたり、訪問歯科で診てもらっているようにしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表、排便表を活用し、その方の排泄パターンを把握して、出来る限り失敗しない排泄を目指している。オムツの方も、必ず一度はトイレに座るようにしている	「快便」をモットーにしており、利用者の排泄パターンを常に把握しています。介護度も高度化していますが、1日に1回はトイレに座って排泄をして頂く事を決めています。トイレは個室になるのでドアを閉めると夏は暑くなる為、扇風機を設置し「快便」を維持し、自立に向けた支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給時に、乳酸菌飲料(牛乳、ヨーグルトなど)を摂ってもらったり、食物繊維の多い食べ物をおやつで提供したりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながら声掛けをし、その方のタイミングに合わせて入浴できるようにしている。入浴拒否が強い場合には、時間や日にちを変更し無理強いはいしない。体力、体調を考えて全身清拭することもある	お風呂は、温泉を引いておりいつでも入浴出来る状態となっています。「ゆず湯」「薫湯」で季節を感じて頂く取り組みも行われています。週3回を基本としていますが、入浴時間や曜日の変更等、臨機応変に対応されています。高度化している現在、一人ひとりの体力や体調を見ながら、足浴や全身清拭を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの整うように日中は体操等、運動したり出来る限り活動的に過ごせるよう支援している。その方に応じて短時間の昼寝も取り入れている。疲れが見られる際には、その都度休息も挟むようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに確認できるように、一人ひとりの薬事情報をファイルに挟んで管理している。薬の変更があれば職員全員が把握できるよう伝達する。薬をセットしたり、服薬援助する際には、2重3重で確認し誤薬しないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホール内ではリラックスできる音楽を流したり、テレビ鑑賞したり、その方が興味のある過ごし方を考えて環境を整えている。家事が得意な方には、洗濯物たたみ、お盆拭きなど手伝って頂くことも多い		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、管段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近ではコロナが流行していたため積極的な外出は控えてたが、公園など近所での散歩は増えてきた。自宅に一時帰宅し地域の祭りへの参加も支援することができた	以前ののような積極的な外出は控えていますが、近隣への散歩・地域のお祭りへの参加・近隣の公園で行われていたアニマルセラピー・幼稚園の運動会の見学等以前のような外出支援を取り戻しています。利用者・家族の希望で、自宅に外泊されたケースもあり、家族との時間を楽しまれています。地域のお祭りや公園の草刈りに参加されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があればお金を渡せるようにお小遣いをご家族より預かり金庫で保管している。日常ではお金を所持したり、使ったりすることはない。初詣やお祭りなどで小銭を使うことはあった		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は電話できるように補助している。ご家族からの電話には子機を耳に当て会話できるようにしている。年賀状や季節のお便りには、ご家族へのメッセージを職員が代筆している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのタペストリーやお花を飾るなどし、今の季節を感じていただけるよう環境づくりをしている。窓からの太陽光は眩しすぎないように配慮しながらも自然な光が差し込むようによい照明なども使用している。音楽は童謡、唱歌を好まれるのでよく流している	共用空間に、手作りのタペストリーやお花を飾り季節感を醸し出しています。お気に入りの場所でお気に入りのソファでゆっくりテレビを見たり音楽を聞いたり編み物をしたり心地よい音を聞きながら、職員と楽しい会話をするなど、居心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの共有スペースでは、気の合う方と隣同士になれるよう席を決めたり、テレビをよく見る方は見やすいソファ席にしたりとご本人が望む場所でくつろいでいただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、ご自宅で使用していた馴染みのある物を部屋に置くようにしている。ご家族からの手紙やメッセージを飾ることもある	自宅で使用されていた馴染みのあるもの(お雛様、地球儀、百科事典)や家族の写真・手紙・趣味の物・職員手作りの小物等、職員と一緒に飾りつけを行い、個性ある居室となっています。高齢になり居室内での転倒に配慮し、きちんと整理整頓がなされており、快適に過ごせる工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫することで、つかまる場所を作り、転倒を防いだり、トイレの入口には「便所」、浴室の入口には「風呂場」と分かりやすいよう札を掛けている。廊下等いたる場所には手すりを設置している		